

# TAPINSYSTEMS

Tap In Systems, Inc.のクラウド管理サービス

## QuickView ユーザガイド

Tap In Systems の QuickView Console の使い方

Version 0.3a running on Amazon EC2 Linux

Copyright 2008-2009 Tap In Systems, Inc. ("Tap In"). All rights reserved. Use is subject to Tap In license terms. This software and documentation is sold and distributed without warranty of any kind, either express or implied, including but not limited to the implied warranty of merchantability and fitness for a particular use. Neither the author nor any licensor assumes any

## 目次

本ドキュメントでは、Tap In Systems の QuickView Console (コンソール) アプリケーションのインストール、構成設定、オペレーションとカスタマイズについて説明します。

Tap In の Web サイトでアクセスできる他の Tap In Systems のガイドには、Tap In Systems CMS の申し込みと使用開始の仕方について説明する *Quick Start Guide* と *Reports User Guide*, および *System Administrator Guide* があります。

<b>QuickView</b> について .....	<b>3</b>
<b>QuickView</b> のインストール .....	<b>4</b>
前提条件 .....	4
Java のダウンロードとインストール .....	4
Download and Install QuickView のダウンロードとインストール .....	4
<b>QuickView</b> の起動 .....	<b>5</b>
QuickView のログインダイアログ .....	5
QuickView の停止 .....	5
<b>QuickView</b> のオペレーション .....	<b>6</b>
QuickView のメインウィンドウ .....	6
スクロール、ソートとイベント選択 .....	7
QuickView アクションバー .....	7
QuickView メニューバー .....	8
コンソールフィルターの定義.....	8
<b>QuickView</b> デフォルトセッティングの構成設定 .....	<b>10</b>
構成 XML .....	10
QuickView スタートアップの自動化 .....	11
用語集 .....	<b>12</b>

## QuickView について

Tap In *Management Server* は、Tap In Systems の製品の中核であり、種々のネットワーク、システムおよびアプリケーションにわたる監視と制御を提供します。このサービスは、メディエータとコンシューマのスクリプトのためのプログラミング拡張を含む Amazon の Web サービスサーバーインスタンスです。また、さまざまなコンポーネント間の通信を、定義された IP ソケットプロトコルを使って仲介します。自動化、対比およびクライアントアプリケーションは、イベント情報を共有するためにこのプロトコルを使用します。メディエータとコンシューマの自動化アプリケーションは、管理サーバや Tap In エージェントとして、リモートシステム同じプラットフォーム上で実行できます。管理サーバは、他の管理サーバや Tap In クライアントへの接続をサポートします。

QuickView は Tap In 管理サーバのクライアントで、あなたの管理サーバ上のすべてのオープン中イベントを見ることができる高性能のコンソールです。QuickView は、管理サーバがイベントを処理するたびにダイナミックにアラームを更新します。アラーム情報はカラーコード化されたテキスト形式で表示します。アラームはオペレータの要求に従って、フィルターやソート処理されるかもしれません。

QuickView は、Java ベースのアプリケーションで、ほとんどの Windows、Linux、UNIX や SUN オペレーティングシステムなど、Java をサポートするどのようなプラットフォーム上でも動作します。

図: Tap In Systems - QuickView コンソールアプリケーション

ID	ASTO	RTTO	SEV	GROUP	COUNT	FIRST	LAST
0000002	~	~	4	null	1	2009-01-13 13:23:03.134	2009-01-13 13:23:03.134
0000007	~	~	4	null	1	2009-01-13 13:26:19.994	2009-01-13 13:26:19.994
0000005	~	~	5		2	2009-01-13 13:26:17.922	2009-01-13 13:26:17.922
0000004	~	~	5		2	2009-01-13 13:26:17.913	2009-01-13 13:26:17.913
0000006	~	~	1		2	2009-01-13 13:26:19.932	2009-01-13 13:26:19.932
0000008	~	~	4		2	2009-01-13 13:26:20.002	2009-01-13 13:26:20.002

Total: 7

Filter:

## QuickView のインストール

QuickView プログラムは、同時には一台の Tap In 管理サーバ上と一緒に動作します。しかし、複数の QuickView インスタンスを、それぞれ別の Tap In 管理サーバと接続して稼働させることができます。

### 前提条件

- オペレーティングシステム - QuickView は、通常 Windows や Linux システム上にインストールされる Java クライアントアプリケーションです。
- Java - QuickView は Java クライアントアプリケーションで、Java version 1.6 以降のインストールを要求します。
- Tap In 管理サーバ - QuickView は実行中の Tap In 管理サーバ上への正当なログインでのアクセスを要求します。管理サーバ上での QuickView ユーザーの定義に関連する情報は *Tap In Systems Administrator Guide* を参照してください。
- ブラウザ – Firefox version 3.0 か Internet Explorer version 7.

### Java のダウンロードとインストール

- 適切なオペレーティングシステムのための Java をダウンロードしてインストールするため、Java サイト <http://www.java.com/en/download/manual.jsp> に行きます。

### QuickView のダウンロードとインストール

下記の手順に従って、Windows や Linux のための QuickView をダウンロードし、インストールします：

#### Windows

1. ダウンロード – ブラウザで Tap In の Web サイト <http://www.tapinsystems.com/> navigate を開き、Resources、Downloads ページにナビゲートして、QuickView Console for Windows download のリンクをクリックします。
2. インストール – Windows パッケージは MSI files として提供されます。ダウンロードした .msi ファイルをクリックすると、インストール手続きのプロンプトが表示されます。

#### Linux

3. ダウンロード – ブラウザで Tap In の Web サイト <http://www.tapinsystems.com/> navigate を開き、Resources、Downloads ページにナビゲートして、QuickView Console for Linux download のリンクをクリックします。
4. インストール – Linux パッケージは tar ファイルとして提供されます。ダウンロードした .tar ファイルを Untar します。

図: Tap In Systems – ダウンロード



## QuickView の起動

Windows や Linux の QuickView を起動するには、下記の手順を実行してください：

- **Windows** – インストール後にデスクトップに表示される  Tap In QuickView アイコンをクリックします。
- **Linux** – 下記のコマンドで **Java** プログラムを直接呼出します。必ず、**Jar** ファイルと同じディレクトリからコマンドを実行してください。また、構成 **XML** ファイルが最後のパラメータとして参照されることに注意してください。異なる構成ファイルを使いたい場合、このコマンドライン内のファイル名リファレンスを変更してください。

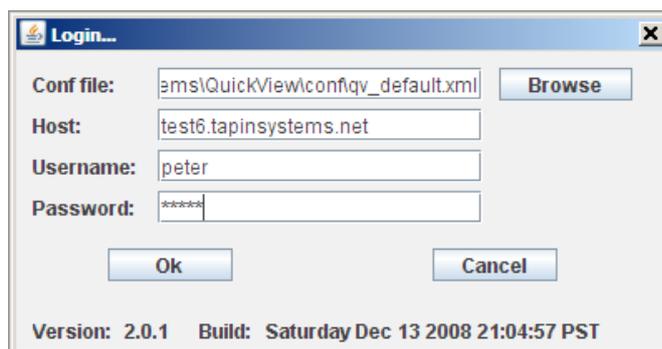
```
start javaw -classpath .\WmiProxy.jar;.\axis.jar;.\jaxrpc.jar;.\js.jar;.\jdom.jar;.\hsqldb.jar;.\servletapi.jar;.\spark-1.2.jar com.spiderweb.quickview.Gui qvdefault_default.xml
```

## QuickView のログインダイアログ

QuickView の起動後、ログインのダイアログボックスが表示されます。後述の設定を入力し、**OK** をクリックすると、QuickView が起動して Tap In 管理サーバに接続します。Tap In 管理サーバへの接続が失敗した場合、エラーメッセージのダイアログボックスが表示されるでしょう。通常、指定されたマシン上でサーバが稼動していないか、あなたが誤ったホスト名、ユーザ名やパスワードを使用したことを意味します。

- **Conf file** – これは、あなたがオープンするセッションのためのパラメータを含む構成ファイルです。**Browse** を選んで **Conf** サブディレクトリにナビゲートし、**qv\_default.xml** ファイルを選んでください。QuickView に慣れたら、自分自身のデフォルトセッションパラメータをセットするためにこのファイルを編集できます。本ドキュメントの **QuickView スタートアップの自動化** を参照してください。
- **Host** – これは管理サーバです。あなたがスタートさせた管理サーバ (例: **test6.tapinsystems.net**) のホスト名を入力します。
- **Username** と **Password** – 管理サーバのセットアップ手順内で、**Consumer** (コンシューマ) ユーザとして定義した、ユーザ名 (**Username**) とパスワード (**Password**) を入力します。これらの設定を変更していない場合、デフォルト値 **peter** と **peter** が使用できます。

図: QuickView のLogin ダイアログボックス



## QuickView の停止

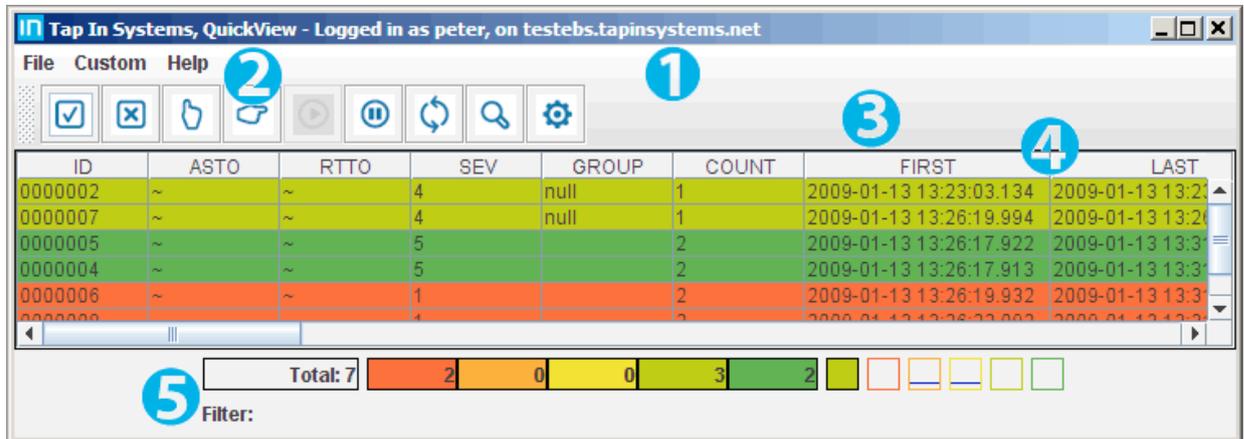
QuickView アプリケーションを停止するには、メニューバーから **File**、**Logout** を選びか、アプリケーションのウィンドウの右上端にある **"X"** をクリックして QuickView のウィンドウを閉じます。

## QuickView のオペレーション

### QuickView のメインウィンドウ

起動したら、QuickView プログラムはウィンドウを生成し、あなたが接続した Tap In 管理サーバからのイベントを表示します。通常の QuickView Console (コンソール) の見え方は下記のようになります。

図: QuickView コンソールのメインウィンドウ



#### ① タイトルバー

タイトルバーは SSL コネクションが使用されているかどうかと、ユーザ名および Tap In 管理サーバのホスト名を表示します。

#### ② メニューバーとアクションバー

メニューバーとアクションツールバーは、ウィンドウ上部の位置にあります。

#### ③ イベントリストとスクローリング

イベントリストはすべてのオープン中イベントを表示します。QuickView コンソール内の各イベントは、画面内に水平方向で表示されます。各イベントは複数の属性を持ちます。属性はコンソールウィンドウ上のカラムを構成します。初期コンソールのフィールドは、構成 XML でそれらの表示を定義された順序で表示されます。ウィンドウの底部と右側にあるスクロールバーを使って、上下、左右にスクロールすることができます。

#### ④ カラムのソート、幅と位置

カラムのタイトルをクリックすることで、イベント表示のカラムをソート（昇順、降順）できます。フィールド幅を変えるには、フィールドを分けているラインをドラッグします。また、フィールドを望む順番にドラッグ&ドロップすることで、フィールドの順番を変えることができます。

#### ⑤ イベントサマリーとフィルター名

ウィンドウの底部に表示されるサマリーは、重大度毎のイベントの総数を表示します。また、使用されていれば、このエリアにフィルター名がリストされます。

## スクロール、ソートとイベント選択

- スクロール – 一般的に、QuickView ウィンドウ内には、画面上に表示できる以上の情報があります。あるイベントのすべての属性を参照するには、水平方向のスクロールバーを使ってください。ウィンドウに表示されている以外の他のイベントを見るには、垂直方向のスクロールバーを使ってください。
- ソート – ヘッダ行内のフィールド名上を左クリックすることで、どのイベントフィールドでも、ソートします。
- イベント選択 – ユーザは、最初に、ひとつか複数のイベントを選択してからアクションを選択することで、イベントへのアクションを行うことができます。選択されたイベントがグレーに変わって、ウィンドウが停ります。あるイベントの上をクリックし複数のイベントの上をドラッグする、あるいは、あるイベントをクリックしCTLを押しながら追加イベントを選択することで特定のイベント群を選びます。

## QuickView のアクションバー

アクション	説明
	<b>全イベントの選択/非選択</b> – アラームが選択されていない場合、これは QuickView ウィンドウ内の全イベントを選択し、ウィンドウをフリーズします。アラームが選択されていれば、すべてのアラームを非選択にします。
	<b>選択したアラームのクローズ</b> – アクティブなイベントリストからイベントを削除します。そのイベントは他の QuickView ユーザとコンシューマアプリケーションについてクリアされます。
	<b>イベントのオーナーシップ受け入れ</b> – あるユーザが選択したイベントのオーナーになることを示します。この機能は、複数ユーザがどの問題が調査中でどれがそうでないかを分かるようにします。イベントを選択して <b>Assign</b> を選んだ後、ユーザIDが入るのがこのフィールドです。
	<b>移管する</b> – イベントのオーナーシップを他のユーザに移します。イベントを選択して <b>Route To</b> を選んだ後、ユーザ（コンシューマ）のリストが表示されます。それらのユーザのひとつを選びと <b>Route To</b> フィールドにそのユーザIDが入り、そのユーザに移管されたのが分かります。そのユーザを承認するために <b>Assign</b> を選ぶと、それにより <b>Route To</b> フィールドはクリアされます。
	<b>表示再開 (レジューム)</b> – このアイコンが選択されたら、コンソールの更新が有効になります。表示の停止アイコンが選ばれるとブリンクします。QuickView ウィンドウは、“アクティブ”(レジューム) 状態か“フリーズ”(停止)状態のどちらかです。アクティブ状態の場合、Tap In 管理サーバによって処理された新しいイベントは自動的に更新されます。しかし、イベントを調べるためには、QuickView ユーザは、ウィンドウをフリーズしたい場合があるかもしれません。
	<b>表示停止</b> – メニュー化やアクションバーから <b>Stop</b> オプションを選ぶと、これが行えます。ウィンドウがフリーズ状態の場合、表示停止アイコンはフラッシュします。レジュームアイコンをクリックすると、ウィンドウはアクティブ状態に復帰し、キューイングされたすべてのイベントが更新され、アイコンはフラッシュしなくなります。
	<b>再同期</b> – 強制的に最新のアクティブイベントを Tap In 管理サーバから QuickView に送らせます。通常、QuickView には新しいイベントしか送られません。このオプションはQuickView 内のオープン中イベントリストをサーバから送られてきた現在情報で置き換えます。なんらかの原因でQuickView 画面が壊れた場合、File/Refresh メニューを選ぶだけで、表示が再描画されます。
	<b>調査</b> – イベントをダブルクリックすることで、単一イベントの詳細すべてを参照します。複数のイベントを選択して、調査アイコンを選ぶと、次へ/戻る ボタン(“>>>”と“<<<”) が使えるようになり、次や前のイベントへページを移動することができます。このダイアログボックスを使って、フィールド値を他のアプリケーションにコピー&ペーストすることも可能です。
	<b>SQL フィルターをセット</b> – コンソールのイベントリストに適用するフィルターを定義します。詳しい手順については、後述の <b>コンソールフィルターの定義</b> を参照ください。

## QuickView メニューバー

さまざまなアクションが QuickView メニューバーからもアクセスできます。下表でメニューバーからのみアクセスできる他のアクションをリストします。

オプション	説明
File>Login	Login – このオプションは、ログアウトしているときのみ有効です。このオプションは Login ダイアログボックスを表示します。
File>Logout	Logout - ログインしているときのみ有効です。これは QuickView から Tap In 管理サーバをディスコネクトしますが、QuickView は動いています。ここで、別の Tap In 管理サーバにログインすることができます。File、Log Out の選択やウィンドウを閉じるだけのログアウトをします。
File>Print	Print – メニューバーからアクセスします。このオプションはイベントリストをプリンターに送ったり、ファイルに保存したりします。
File>Close	Close – メニューバーからアクセスし、QuickView ウィンドウとプログラムを閉じます。
Help	Help - Tap In System の Webサイトの QuickView ヘルプページをブラウザで開きます。
Help>About	About - QuickView バージョンを表示するウィンドウを開きます。

## コンソールフィルターの定義

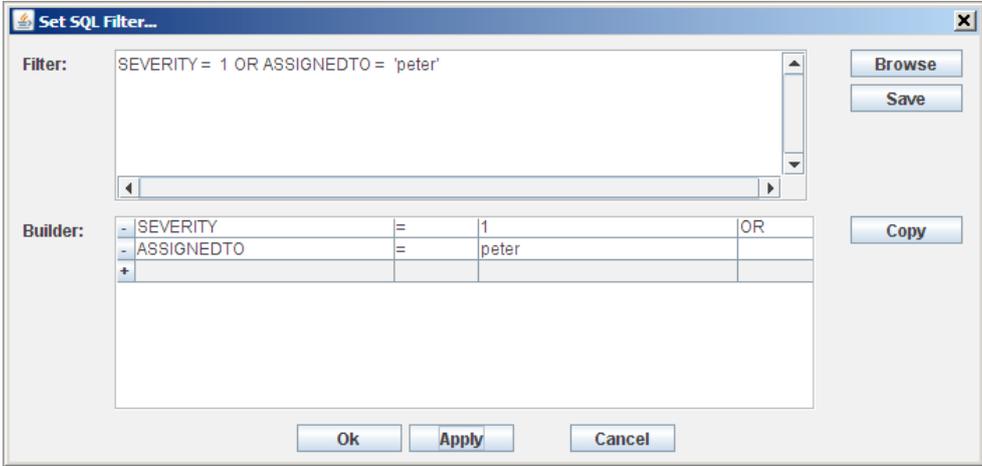
Filter オプションで、オープン中イベントのリストをフィルターし、たとえば重大度 1 のイベントのみの表示など、SQL select コマンドに適合したイベントを表示することができます。

1. アクションアイコン  を選ぶか、**Custom>Filter** メニューオプションを選びます。Set SQL Filter ダイアログボックスが表示されるでしょう。
2. Builder の横の “+” サインを選び、正しい SQL ステートメントを作成します。
3. “+” の上のセル内を個別にクリックし、ドロップダウンリストからフィルターのクライテリアを選択します。たとえば下図では、フィールド: **SEVERITY**、オペレータ: “=”、および 一致する重要度 (Severity) は “1” です。また、フィールド名と条件を知っていれば、SQL 条件を直接 Filter セクションに書き入れることもできます。

複数条件を作成するには、Builder の “+” サインを再度選択します。AND や OR オペレータが複雑な SQL 条件を構築するのに使用できます。LIKE や IN を含む、完全な SQL シンタックスがサポートされます。

4. SQL 条件が定義されたら、Filter エリアを埋めるために **Copy** を選びます。

図: Set SQL Filter ダイアログボックス



Builder:	Field	Operator	Value
-	SEVERITY	=	1
-	ASSIGNEDTO	=	peter
+			

5. 次に、**Apply** を選ぶと、イベントウィンドウにはセットされた **Filter** の条件にマッチしたアラームが表示されるでしょう。そのフィルターの詳細は、イベントウィンドウの底部に表示されます。

図: フィルター結果

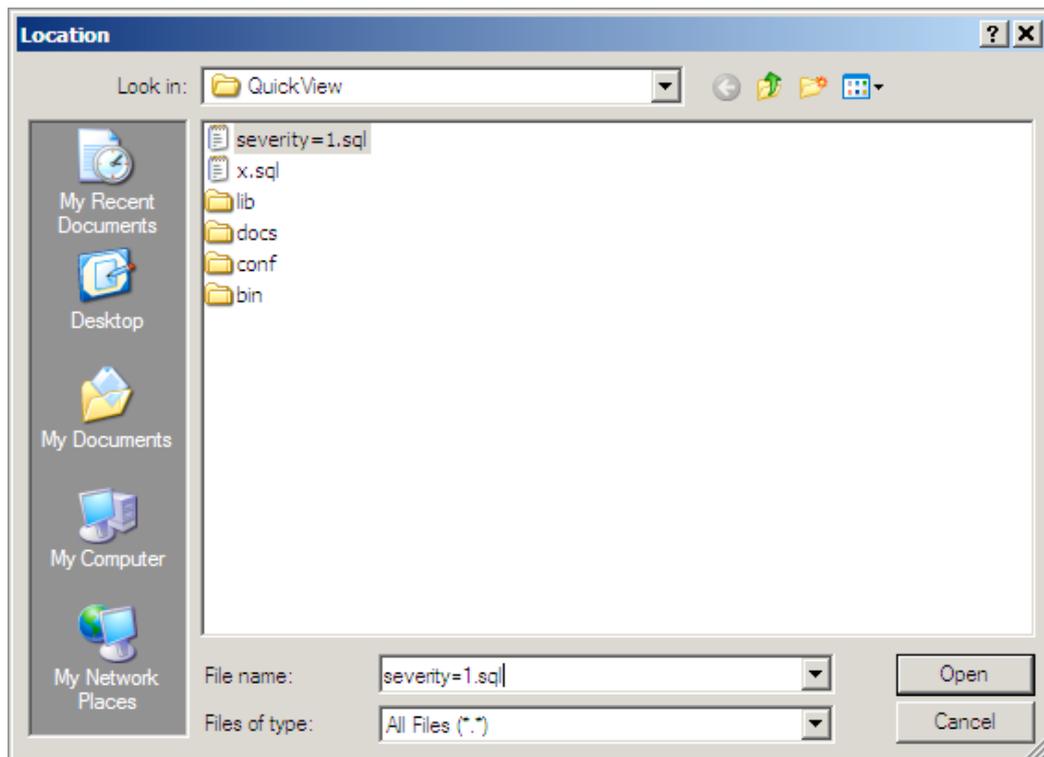
ID	ASTO	RTTO	SEV	GROUP	COUNT	FIRST	LAST
0000003	peter	~	5		14	2009-01-15 11:32:06.844	2009-01-15 12:37:07
0000004	peter	~	5		14	2009-01-15 11:32:06.844	2009-01-15 12:37:07
0000005	peter	~	1		14	2009-01-15 11:32:08.893	2009-01-15 12:37:09
0000006	~	~	1		14	2009-01-15 11:32:10.883	2009-01-15 12:37:11

Total: 4    2    0    0    0    2

Filter: SEVERITY = 1 OR ASSIGNEDTO = 'peter'

6. 一度 **SQL** 定義を定義したら、**Save** 選択で保存し、保存したフィルターを別の時に呼び出すことができます。保存されたフィルターを使うには、このダイアログボックスを開いて **Browse** を選び、保存したフィルターを選択します。

図: 保存されたフィルターを開く



## QuickView デフォルトセッティングの構成設定

### 構成 XML

QuickView は、コネクションと表示パラメータをセットするのに構成ファイルを使用します。この構成 XML ファイルを編集することで、あなたのデフォルト QuickView セッティングを作成できます。

qv\_default.xmlのセッティング例と説明:

```

<QUICKVIEW
  debug="none"                # Setting ON displays additional messages to the console.
  Host=""                    # Hostname of the Tap In Management Server
  username=""                # Username defined on the Tap In Management Server
  password=""                # Username's password defined on the server
  sev1color="255"            # Override the display color settings for severities.
  Sev2color="32767"          # Can be specified as decimal or hex if preceded by numbers.
  sev3color="65535"          # Are justified left. Example: "255", "#FF", and "#FF0000" all
  sev4color="16776960"       # represent the color red.
  sev5color="597">
  <SSL keyStore="C:\tapinsystems\spider.bin" # If SSL option is used, this is the location of the
    keyStorePassword="spideradmin"/>      # SSL certificate. If SSL is not used, delete this line.
  <LOG stdout="C:/stdout.txt"              # Log file output files.
    stderr="c:/stdout.txt"/>
  <COLUMNS>                             # Define the event columns to display, order and width.
    <ID width="80"/>                       # ID - The event's unique identifier
    <ASTO width="0"/>                       # Assigned To – ID of the consumer accepting ownership
    <RTTO width="0"/>                       # Route To – ID of the consumer event is routed to
    <SEVERITY width="80"/>                 # Severity – The severity of an event
    <PRIORITY width="80"/>                 # Priority of an event
    <COUNT width="80"/>                 # Count – The number of redundant events
    <FIRST width="120"/>                 # First Time – Creation time of this event
    <LAST width="120"/>                 # Last Time – Last time this event was updated
    <CLASS width="100"/>                 # Class – A class designation assigned by the server
    <GROUPING width="200"/>             # Group – A group designation assigned by the server
    <EMS width="80"/>                     # EMS – The category of the event
    <RULE width="100"/>                 # Rule – The rule name generating an event
    <T1 width="0"/>                       # T1/N1-T3/N3 – Unique identifier for an event based
    <N1 width="200"/>                     # on the HRL fields in the form of T1:N1, T2:N2, T3:N3.
    <T2 width="0"/>
    <N2 width="150"/>
    <T3 width="0"/>
    <N3 width="150"/>
    <MESSAGE justify="left" width="800"/> # Text message associated with an event
    <STAT width="0"/>                     # Status of the event - assigned, accumulates, times out, etc.
    <GA width="0"/>                       # Graph Attribute – Attribute name associated with an event
    <GV width="0"/>                       # Graph Value – Attribute values associated with an event
  </COLUMNS>
  <SPARKLINE type="line" title="SEV1" limit="60"> # Define the event-input-rate graph displayed on the bottom
  </SPARKLINE> # of the QuickView window.
  <SPARKLINE type="line" title="SEV2" limit="60"> # Valid types are line and bar.
  <SPARKLINE type="line" title="SEV3" limit="60"> # Limit shows the last number of incoming events to include
  </SPARKLINE> # in the graph.
  </SPARKLINE>
  <SPARKLINE type="line" title="SEV4" limit="60">
  </SPARKLINE>
  <SPARKLINE type="line" title="SEV5" limit="60">
  </SPARKLINE>
</QUICKVIEW>

```

## QuickView スタートアップの自動化

QuickView と Tap In 管理サーバに、クリックひとつで自動的に接続することができます。この自動化プロセスは、通常、ホスト情報とログイン認証を要求する **Login** ダイアログボックスを回避してコンソールを立ち上げます。このプロセスは、構成 **.xml** ファイル内で定義されたホスト名、ユーザ名とパスワード設定へのリファレンスを含むコマンド（ないし **Windows** のバッチファイル）を取り込み、定義されたホストに接続します。下記の手順に従い、あなたの構成ファイルを編集して、**QuickView** を起動してください。

スタートアップ時に、これらの設定を手動で投入したい場合、構成ファイルの設定をブランクにしたままで、それらをログインダイアログボックスに入力してください。これらのパラメータをダイアログボックスに入力すると、右の設定を上書きします：ホスト、ユーザ名、パスワード。

1. まず、構成 **.xml** ファイル内で定義されている ホスト、ユーザ名とパスワード設定を入手します。

**<QUICKVIEW**

**debug="none"**

**host="testbs.tapinsystems.net" # Hostname of the Tap In Management Server**

**username="peter" # Username defined on the Tap In Management Server**

**password="peter" # Username's password defined on the Tap In Management Server**

2. 次に、コマンドプロンプトのウィンドウを開き、下記のコマンド（コーテーションと一緒に、一行で）を実行します。あるいは、簡便のため、下記のコマンドを含むバッチファイルを作成して、そのバッチファイルへのショートカットをデスクトップに置くと良いでしょう。

**“C:¥Program Files¥Tap In Systems¥QuickView¥quickview.exe”**

**“C:¥Program Files¥Tap In Systems¥QuickView¥conf¥qv\_default.xml”**

3. コマンドラインを投入するか、バッチファイルを実行すると、構成ファイルで指定したホスト（例. **qv\_default.xml**）への **QuickView** が開きます。

## 用語集

この表は、Tap In アプリケーションに関連する用語を説明します。

<b>Alarm</b> (アラーム)	Tap In 管理サーバシステムが表出してQuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。アラームは、severity、priority、text messageと ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。アラームは、用語「イベント」と相互に置き換えて使用できます。
<b>Attributes:</b> (アトリビュート)	アトリビュートは、各 Tap In 管理サーバのイベントを含む、抽象エレメントです。アトリビュートには下記が含まれます：
<b>EMS</b>	<b>Element Management System.</b> (エレメント管理システム) のホスト名。このフィールドは、アラームのソースを示し、Tap In 管理サーバのよってそのホスト名が入れられます。 (例、ip-10-251-210-132.ec2.internal).
<b>CLASS</b>	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なクラス指定で、一般的には管理対象機器のカテゴリ (例、All、QVC、Spide、TIS_EC2_Linux_Agent) をセットします。たとえば、Linux エージェントから来た全イベントに対し Linux_Agent クラスが指定されるでしょう。
<b>GROUP</b>	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なグループで、一般的には異なるクラス間にまたがった共通フィールドが定義されます。たとえば、特定のアプリケーションに影響を与える異なる管理対象デバイスからのイベントは、同じグループ設定を持つでしょう。
<b>RULE</b>	そのタイプのアラームを指定されたイベントを発生させたルール名 (例、ScheduledCheck)。たとえば、Linux Agent クラスの空メモリ量を示すイベントは free_memory というルールを持ちます。
<b>HRL</b>	<b>Hierarchical Resource List</b> (階層リソースリスト)：T1 から T3 と N1 から N3 の一連の名前と値のペア。これらのフィールドはアラームの発生源を表します。各レベルはタイプのフィールドと値のフィールドを持ちます。各イベントに対し、できるだけ具体的にHRL は影響を及ぼしたコンポーネントを表します。たとえば、特定のカードとポートに使用するネットワークコンポーネントからイベントを受けた場合、その HRL は下記のようなになるでしょう： T1 – Host N1 – 192.168.1.200 T2 – Card N2 – A T1 – Port N1 – 101
<b>COUNT</b>	同じクラス、ルールと HRL のイベントの繰り返し回数。繰り返しアラームが発生した場合、メディエータ (mediator) がこのカウントを増やすか、新しいアラームを作成するかを決定します。
<b>SEVERITY</b>	1 (最高) から 5 (最低) までの重大度のランク付け。アラームの色が重要度 (severity) を示します。デフォルト色は 赤 (severity 1)、オレンジ (severity 2)、黄色 (severity 3)、LT グリーン(severity 4) と 緑 (severity 5) です。レポートフィルタのオプションにもイベント重大度 (All、1-5、と <3、<4、<5) があります。
<b>PRIORITY</b>	1 から 99 (最低) までのイベントの優先度ランク付け
<b>FIRST TIME</b>	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最初の時間 (例、Fri Jan 16 14:25:13 2009)。
<b>LAST TIME</b>	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最後の時間 (例、Fri Jan 16 16:50:14 2009)。
<b>EVENT ID</b>	イベントのユニークな識別子 (例、...5, 4, 3, 2, 1)。
<b>ASTO</b>	アサイン先の ID – イベントにアサインされたコンシューマ (consumer) 名 (例、peter)。
<b>RTTO</b>	振り先の ID -- イベントの振り先とされたコンシューマ (consumer) 名 (例、peter)。
<b>STATUS</b>	イベントのステータス。管理サーバがどのようにそのイベントを処理するかを示すのに使用される単一文字指標の組み合わせでも可。
<b>MESSAGE (TEXT)</b>	イベントに付随するテキストメッセージ (例、CRITICAL – 10.254.34.192: rta nan, lost 100% rta=0.000ms; 200.000;600.000;0; pl=100%;80;100;;)。
<b>GA</b>	レポートプログラムがグラフ化するアイテムとして翻訳するグラフのアトリビュート (例 rta;pl)。
<b>GV</b>	レポートプログラムが GA と結び付けてグラフ化する値や数値として、翻訳するグラフの値 (例、0.000;100)。
<b>Configuration Management Instance</b> (構成管理インスタンス)	Tap In管理サーバ上にプッシュおよび導入が可能な、使用権のあるユーザやアクティブチェックを含む、構成定義。同時にひとつのみのインスタンスが稼働中でアクティブとして導入できますが、複数のインスタンスをあらかじめ定義できます。たとえば、変更実施期間中に、あなたの管理インフラストラクチャにシステムを追加したい場合、新しいシステムのための監視定義を含む新しいインスタンスをあらかじめ定義できます。あなたの変更を導入後、Tap In 管理サーバ上にあらかじめ定義されたインスタンス

	スを導入することができます。
Consumer (コンシューマ)	特別目的の管理機能のために Tap In 管理サーバのイベントを使用するプログラム。Tap In の QuickView コンソールはコンシューマプログラムです。
Event (イベント)	Tap In 管理サーバシステムが表出して QuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。アラームは、severity、priority、text message と ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。イベントは、用語「アラーム」と相互に置き換えて使用できます。
Event Bus (イベントバス)	メディアータからイベントを受け取り、コンシューマにイベントを送るのに責任を持つ、Tap In 管理サーバシステムのコンポーネント。これは、独立した Java アプリケーションです。
Event Display (イベント画面)	Tap In 管理サーバシステムのイベントを詳しい一行目毎の形式で表示する QuickView アプリケーションのメインウィンドウです。
Filter (フィルタ)	ユーザにイベント表示をする前に選別するため使用する Structured Query Language (SQL) の仕様書あるいは、ステートメント。SQL ステートメントは、QuickView のユーザによって定義と保存され、その後カレントのイベント画面に適用されます。
Mediator (メディアータ)	機器やシステムのステータスを監視し、Tap In 管理サーバシステムにイベントを送信するプログラム。
Open and Closed Events (オープン中および、クローズ済イベント)	Open (オープン中) 状態のイベントは管理対象内での現在の問題を示し、運用担当者にとって興味があるものです。QuickView はオープン中のイベントのみを表示します。オペレータは QuickView を使って、イベントを選んで close アクションを選択することで、オープン中イベントをクローズできます。Closed (クローズ済) イベントは、Tap In 管理サーバシステムのデータベースに保存されます。
Perl	システムの検査、および情報の取り出しのため、管理ツールで使用するのに最適化された、インタプリタプログラム言語。ほとんどの Tap In メディアータは Perl スクリプトを使って作成されています。
QuickView	Tap In 管理サーバシステムのデータを人が判読できるカラーコード化した監視イベントに変換する Tap In のデスクトップソフトウェアのアプリケーション。
Ruby	Webアプリケーション開発のために一般的に使用されるインタプリタプログラム言語。Tap In System の Web レポートは Ruby と Ruby-on-Rails で作成されています。
Ruby-on-Rails	Ruby プログラム言語を土台にした Web アプリケーションフレームワーク。Ruby-on-Rails はインターネットの Web アプリケーション開発に広く利用され、速い開発機能を提供します。Tap In System の Web アプリケーションは Ruby と Ruby-on-Rails を使って開発されています。
Severity and Attribute Sparklines (重大度とアトリビュートのスパークライン)	Sparkline (スパークライン) の用語は、Edward Tufte のよって、小さく、コンテキストの用語、数字、イメージを組み込んだ高解像度のグラフのために提案されました。Tufte は、スパークラインを、データに強く、シンプルなデザインの文字サイズのグラフィックと述べています。標準的な図表できるだけ多くのデータを示すようデザインされ、文章の流れの中に置かれるのに対し、スパークラインは簡潔、覚えやすく、それらが検討されるべき場所に置かれることを意図しています。
Severity Timelines (重大度タイムライン)	時系列グラフ上の位置としてイベントの重大度を表示するレポートのオプション。
Tap In Cloud Management Service (Tap In クラウド管理サービス)	システムとアプリケーション監視と管理を可能にする Tap In Systems が提供するサービス。そのサービスでは、Tap In 管理サーバへのアクセスと QuickView コンソールやレポートなどの Tap In アプリケーションが提供されます。
Tap In Management Server (Tap In 管理サーバ)	Elastic Compute Cloud (EC2) インスタンスとして Amazon Web Service (AWS) クラウド内で稼動する Tap In Systems のソフトウェア。Tap In 管理サーバはシステムや他の技術からのイベントをコンシューマプログラムで使うための中立な形式のイベントストリームに変換します。
Web Application (Webアプリケーション)	Web で構成設定とレポートを提供する Tap In 管理サーバのコンポーネント。